



いなざわ九条の会

号 外

<2010年 1月>
発行
いなざわ九条の会事務局

■2010年1月・月例会(第23回)のご案内■

映画視聴

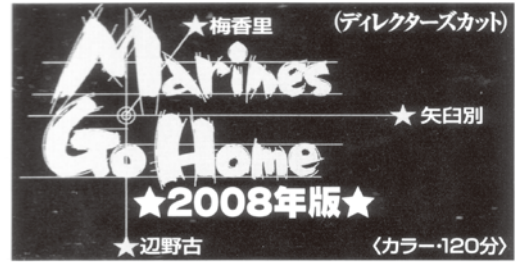
ドキュメンタリー映画 藤本幸久監督作品

普天間基地移設を考える...

「マリーンズ・ゴー・ホーム 2008年版」

—辺野古・梅香里・矢臼別—

米軍の新基地建設を11年間止め続けている沖縄・辺野古のおじいやおばあたち。20年間の闘いで米軍の射撃場を撤去させた韓国・梅香里の漁民たち。40年間、北海道・矢臼別演習場のど真ん中に暮らし続ける農民。志を守り、屈せずに、闘い続ける人々の姿がある。



日時 2010年 1月23日 (土)
午後 2 時00分～ 5 時00分

場所 稲沢市民会館視聴覚室 **参加費** 300円 (会場費・機器使用料など)

逆風の中で——澤地久枝

人間として、ギリギリの声をあげようとする人たちに、逆風が吹きつづける。勇気が試されるいやな「政治の季節」到来である。しかし、何十年も見事にその志を守り、屈せずに生きてきた人たちはいる。日本にも、韓国にも。

戦後六十年、さらにはこれからの計測しがたい年月、米軍の軍事基地を容認し続けるとはどういうことか。米軍基地という明白な憲法違反を日米安保条約は招来した。

北海道の矢臼別の陸上自衛隊基地。その原野の真ん中に四十年住みつづけ「自衛隊は憲法違反」と大書し、憲法前文と第九条条文を屋根にくっきりと書いてある川瀬汎二さん。米軍の実弾射撃場梅香里で反対運動を展開したチョン・マンギユさんが川瀬さんを訪ね

てくる。実弾演習は沖縄の市民生活のそばでもおこなわれ、沖縄から矢臼別へ米軍の移動訓練もある。梅香里も日本本土も沖縄も、まるで「アメリカ軍の庭」のようだ。

一九九五年秋、米兵による少女強姦事件のあと、沖縄県民空前の抗議行動から、普天間基地返還問題は日程にのぼった。だが、代替に辺野古の海上基地建設という驚くべきすりかえがなされた。辺野古の海を守るべく、座り込み九年、さらにボーリング阻止の行動が行われている。本土から参加の若者は沖縄のおばあたちの逞しい明るさに励まされ、力づけられている。

辺野古では、日本人対日本人の対決となり、米軍は他人事のような……。………

(映画パンフレットもくろより転)

■ 2月・月例会(第24回)のご案内 ■

講演 「世界を見て知る～生命を尊重する社会」

伊藤千尋 さん <朝日新聞記者>

日時 2010年 2月11日 (木・祝)
開場 午前9時30分 **開演** 午前10時00分

場所 アイプラザ宮 講堂
※「第21回健友ネット集会」の講演に参加します。

参加費 無料

伊藤千尋(いとう・ちひろ) 朝日新聞記者/ジャーナリスト
1949年山口県生まれ。東大法学部を卒業後、朝日新聞社に入社。その後「NGO・国際協力チーム」メンバーなどを務め、現在「b.e」編集部所属。これまで世界68ヶ国を現地取材し、そこに生きる人びとの姿を伝えてきた。
現在「コスタリカ平和の会」共同代表を務め、「シネ・フロント」などの雑誌に精力的に執筆している。
「9・11」を体験した記者が語る「世界と憲法」「活憲の時代—世界からみた憲法」などをテーマに講演。憲法を活かす=「活憲(かっけん)」を熱く呼びかけ、世界各地を現地取材してきた体験からの話が新鮮な感動をよんでいる。